

## 平成 30 年度決算説明資料

## 目次

I	平成 30 年度収支決算について	
1	収支の状況	
(1)	収支の概要	1P
(2)	収支の推移	2P
①	概要	2P
②	平成 30 年度決算との比較（病院別）	3P
II	平成 30 年度資産・負債・純資産及び留保資金の状況について	
1	資産・負債・純資産の状況	7P
2	施設整備・医療機器等購入について	8P
3	安佐市民病院の建替えについて	9P
4	企業債（移行前地方債債務）・長期借入金の状況	9P
5	留保資金の状況	9P
	資料編	
1	各年度決算比較	
(1)	収支の状況	11P
(2)	収入の状況	12P
(3)	支出の状況	17P

Ⅰ 平成 30 年度収支決算について

1 収支の状況

(1) 収支の概要

平成 30 年度収支決算は、収入合計 584.0 億円に対し、支出合計は 579.9 億円で、差引損益は 4.1 億円の黒字となった。

なお、この黒字 4.1 億円に、前期までの繰越欠損金▲6.1 億円を差し引いた▲2.0 億円は次期繰越欠損金として処理する予定である。

(表 1) 平成30年度収支決算

単位:億円

区 分		合 計 一般 1,482床 精神 28床 感染症 16床 計 1,526床	病 院 別				
			広島市民病院 一般 715床 精神 28床 計 743床	安佐市民病院 一般 527床	舟入市民病院 一般 140床 感染症 16床 計 156床	リハビリテーション病院 一般 100床 自立訓練施設 定員 60名	
収 入	医 業 収 益	入院収入	363.0	209.0	121.5	16.7	15.8
		外来収入	156.0	97.3	45.8	12.1	0.8
		計	519.0	306.3	167.3	28.8	16.6
		その他	10.4	5.8	2.1	2.2	0.3
		小 計	529.4	312.1	169.4	31.0	16.9
	運営費負担金・交付金	46.5	19.4	7.1	13.0	7.0	
	その他	8.1	4.0	2.0	1.1	1.0	
	合 計	584.0	335.5	178.5	45.1	24.9	
支 出	給与費	292.2	157.8	92.1	24.5	17.8	
	材料費	164.8	108.4	50.4	5.6	0.4	
	経費	70.4	36.8	20.2	8.7	4.7	
	減価償却費	43.1	25.6	11.7	3.6	2.2	
	その他	9.4	6.2	1.5	1.1	0.6	
	合 計	579.9	334.8	175.9	43.5	25.7	
差引損益		4.1	0.7	2.6	1.6	▲ 0.8	

※ 本部事務局分は、安佐市民病院整備室に係る支出を除き、各病院の職員数、事業規模等に基づき、本部経費が充てられる割合に応じて按分している。

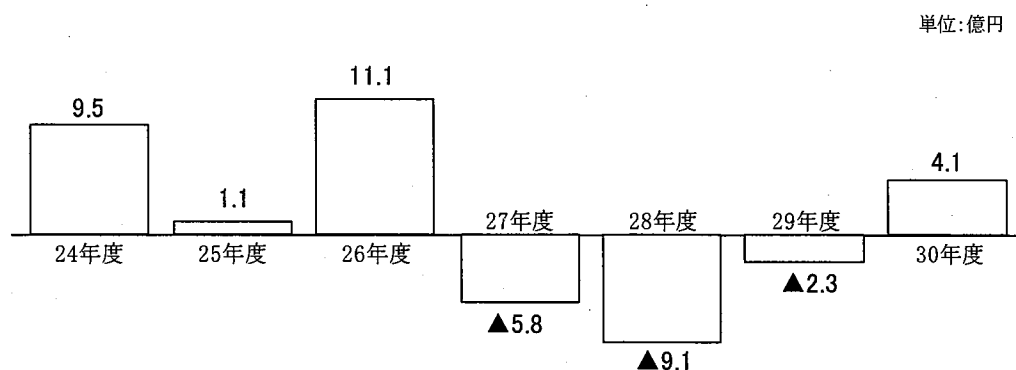
(按分比広島 46.6%、安佐 27.4%、舟入 14.6%、リハ 11.4%)

(2) 収支の推移

① 概要

平成 26 年度まで黒字を維持していたが、27 年度から収支が悪化し、28 年度は機構全体で▲9.1 億円の赤字を計上した。このため、職員一丸となって一層の経営改善に取り組んだ結果、29 年度から大きく収支改善が図られ、今期決算の 30 年度は、4.1 億円の黒字を計上した。

(図 1) 4 病院の損益の推移



(表 2) 病院別内訳

単位: 億円

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	6.1	1.8	5.6	▲ 4.3	▲ 5.3	▲ 4.2	0.7
安佐市民病院	8.8	4.7	5.8	0.0	▲ 3.7	1.0	2.6
舟入市民病院	▲ 2.3	▲ 2.4	1.0	0.0	1.5	1.4	1.6
リハビリテーション病院	▲ 3.1	▲ 3.0	▲ 1.3	▲ 1.5	▲ 1.6	▲ 0.5	▲ 0.8
計	9.5	1.1	11.1	▲ 5.8	▲ 9.1	▲ 2.3	4.1

② 平成 29 年度決算との比較（病院別）

(7) 広島市民病院

収入については、診療報酬改定による増に加え、入院収入は手術件数の増などにより 6.2 億円増加し、外来収入は化学療法の増などによる診療単価の増により 7.0 億円増加した。また、室料差額使用料や駐車場使用料の料金改定等によりその他の収益が合計で 1.0 億円（医業収益 0.6 億円、その他 0.4 億円）増加した。これにより、収入合計は前年度に比べ 15.1 億円増加した。

一方、支出については、給与費は定期昇給などにより 2.2 億円増加し、材料費は化学療法の増などにより 4.6 億円増加した。また、経費は医療機器の保守業務の増や特別病室の修繕などにより 1.8 億円増加し、減価償却費は医療機器の償却費の増などにより 1.0 億円増加した。これにより、支出合計は前年度に比べ 10.2 億円増加した。

その結果、差引損益は、前年度に比べ 4.9 億円改善し 0.7 億円の黒字となった。

(表 3) 収支の推移

単位:億円

区 分		27年度	28年度	29年度	30年度
収 入	入院収入	197.3	200.4	202.8	209.0
	対前年度増減	-	3.1	2.4	6.2
	外来収入	92.1	89.0	90.3	97.3
	対前年度増減	-	▲ 3.1	1.3	7.0
	小 計	289.4	289.4	293.1	306.3
	対前年度増減	-	0.0	3.7	13.2
	その他	5.5	5.1	5.2	5.8
	対前年度増減	-	▲ 0.4	0.1	0.6
	計	294.9	294.5	298.3	312.1
	運営費負担金・交付金	17.5	18.6	18.5	19.4
	対前年度増減	-	1.1	▲ 0.1	0.9
	その他	2.7	3.0	3.6	4.0
	対前年度増減	-	0.3	0.6	0.4
合 計	315.1	316.1	320.4	335.5	
対前年度増減	-	1.0	4.3	15.1	
支 出	給与費	148.8	152.8	155.6	157.8
	対前年度増減	-	4.0	2.8	2.2
	材料費	108.4	105.8	103.8	108.4
	対前年度増減	-	▲ 2.6	▲ 2.0	4.6
	経費	31.9	33.7	35.0	36.8
	対前年度増減	-	1.8	1.3	1.8
	減価償却費	23.4	23.1	24.6	25.6
	対前年度増減	-	▲ 0.3	1.5	1.0
	その他	6.9	6.0	5.6	6.2
	対前年度増減	-	▲ 0.9	▲ 0.4	0.6
合 計	319.4	321.4	324.6	334.8	
対前年度増減	-	2.0	3.2	10.2	
差引損益		▲ 4.3	▲ 5.3	▲ 4.2	0.7
対前年度増減		-	▲ 1.0	1.1	4.9

※ 「その他」の内訳は、以下のとおり

- ① 医業収益の「その他」は、室料差額収益、診断書料等のその他医業収益
- ② 収入の「その他」は、補助金等収益、寄附金収益、預金利息等の財務収益及び駐車場使用料等
- ③ 支出の「その他」は、資産減耗費、研究研修費、支払利息及び雑支出

(イ) 安佐市民病院

収入については、診療報酬改定による増に加え、入院収入は脳神経外科の手術件数の増などにより3.8億円増加し、外来収入は化学療法の増などによる診療単価の増により0.8億円増加した。これにより、収入合計は前年度に比べ3.5億円増加した。

一方、支出については、給与費は定期昇給などにより1.7億円増加し、材料費は化学療法の増などにより0.6億円増加し、経費は医療機器の修繕の減などにより▲0.6億円減少した。これにより、支出合計は前年度に比べ1.9億円増加した。

その結果、差引損益は、前年度に比べ1.6億円改善し2.6億円の黒字となった。

(表4) 収支の推移

単位:億円

区分		27年度	28年度	29年度	30年度
収入	入院収入	109.0	112.5	117.7	121.5
	対前年度増減	-	3.5	5.2	3.8
	外来収入	41.1	43.2	45.0	45.8
	対前年度増減	-	2.1	1.8	0.8
	小計	150.1	155.7	162.7	167.3
	対前年度増減	-	5.6	7.0	4.6
	その他	2.2	2.0	2.1	2.1
	対前年度増減	-	▲0.2	0.1	0.0
	計	152.3	157.7	164.8	169.4
	運営費負担金・交付金	8.9	8.7	8.5	7.1
	対前年度増減	-	▲0.2	▲0.2	▲1.4
	その他	1.2	1.4	1.7	2.0
対前年度増減	-	0.2	0.3	0.3	
合計	162.4	167.8	175.0	178.5	
対前年度増減	-	5.4	7.2	3.5	
支出	給与費	85.1	90.0	90.4	92.1
	対前年度増減	-	4.9	0.4	1.7
	材料費	47.9	48.7	49.8	50.4
	対前年度増減	-	0.8	1.1	0.6
	経費	17.8	19.7	20.8	20.2
	対前年度増減	-	1.9	1.1	▲0.6
	減価償却費	10.8	12.3	12.1	11.7
	対前年度増減	-	1.5	▲0.2	▲0.4
	その他	0.8	0.8	0.9	1.5
	対前年度増減	-	0.0	0.1	0.6
合計	162.4	171.5	174.0	175.9	
対前年度増減	-	9.1	2.5	1.9	
差引損益		0.0	▲3.7	1.0	2.6
対前年度増減		-	▲3.7	4.7	1.6

※「その他」の内訳は、以下のとおり

- ① 医業収益の「その他」は、室料差額収益、人間ドック等の公衆衛生活動収益及び診断書料等のその他医業収益
- ② 収入の「その他」は、補助金等収益、寄附金収益、預金利息等の財務収益及び駐車場使用料等
- ③ 支出の「その他」は、資産減耗費、研究研修費、支払利息及び雑支出

(ウ) 舟入市民病院

収入については、診療報酬改定による増に加え、入院収入は患者数の増などにより1.3億円増加し、外来収入は化学療法の増などによる診療単価の増により0.5億円増加した。また、その他は人間ドック検診者の増により0.2億円増加し、運営費負担金・交付金は救急医療に係る繰入の減などにより▲1.0億円減少した。これにより、収入合計は前年度に比べ1.0億円増加した。

一方、支出については、給与費は定期昇給などにより0.3億円増加し、材料費は化学療法の増などにより0.1億円増加した。また、経費は検査数の増による臨床特殊検査業務の増などにより0.3億円増加し、減価償却費はX線一般撮影システムなどの医療機器の償却費の増などにより0.1億円増加した。これにより、支出合計は前年度に比べ0.8億円増加した。

その結果、差引損益は、前年度に比べ0.2億円改善し1.6億円の黒字となった。

(表5) 収支の推移

単位:億円

区分		27年度	28年度	29年度	30年度
収入	入院収入	16.1	16.6	15.4	16.7
	対前年度増減	-	0.5	▲1.2	1.3
	外来収入	11.6	11.4	11.6	12.1
	対前年度増減	-	▲0.2	0.2	0.5
	小計	27.7	28.0	27.0	28.8
	対前年度増減	-	0.3	▲1.0	1.8
	その他	1.4	1.9	2.0	2.2
	対前年度増減	-	0.5	0.1	0.2
	計	29.1	29.9	29.0	31.0
	運営費負担金・交付金	12.8	13.5	14.0	13.0
対前年度増減	-	0.7	0.5	▲1.0	
その他	1.0	1.1	1.1	1.1	
対前年度増減	-	0.1	0.0	0.0	
合計	42.9	44.5	44.1	45.1	
対前年度増減	-	1.6	▲0.4	1.0	
支出	給与費	23.1	23.5	24.2	24.5
	対前年度増減	-	0.4	0.7	0.3
	材料費	6.3	6.0	5.5	5.6
	対前年度増減	-	▲0.3	▲0.5	0.1
	経費	8.5	8.1	8.4	8.7
	対前年度増減	-	▲0.4	0.3	0.3
	減価償却費	3.7	4.1	3.5	3.6
	対前年度増減	-	0.4	▲0.6	0.1
	その他	1.3	1.3	1.1	1.1
	対前年度増減	-	0.0	▲0.2	0.0
合計	42.9	43.0	42.7	43.5	
対前年度増減	-	0.1	▲0.3	0.8	
差引損益		0.0	1.5	1.4	1.6
対前年度増減		-	1.5	▲0.1	0.2

※ 「その他」の内訳は、以下のとおり

- ① 医業収益の「その他」は、室料差額収益、人間ドック等の公衆衛生活動収益及び診断書料等のその他医業収益
- ② 収入の「その他」は、補助金等収益、寄附金収益、預金利息等の財務収益及び駐車場使用料等
- ③ 支出の「その他」は、資産減耗費、研究研修費、支払利息及び雑支出

(イ) リハビリテーション病院・自立訓練施設

収入については、外来収入は外来リハビリテーションの受入数の増による患者数の増などにより 0.1 億円増加したものの、入院収入は病床利用率の低下などにより▲0.1 億円減少し、運営費負担金・交付金は特殊医療（リハビリテーション）に係る繰入の減などにより▲0.7 億円減少した。これにより、収入合計は前年度に比べ▲0.6 億円減少した。

一方、支出については、給与費は医師数の減などにより▲0.2 億円減少し、企業債利息の減によりその他が▲0.1 億円減少した。これにより、支出合計は前年度に比べ▲0.3 億円減少した。

その結果、差引損益は、前年度に比べ▲0.3 億円減少し▲0.8 億円の赤字となった。

(表6) 収支の推移

単位:億円

区分		27年度	28年度	29年度	30年度
収入	入院収入	15.3	15.4	15.9	15.8
	対前年度増減	-	0.1	0.5	▲0.1
	外来収入	0.4	0.5	0.7	0.8
	対前年度増減	-	0.1	0.2	0.1
	小計	15.7	15.9	16.6	16.6
	対前年度増減	-	0.2	0.7	0.0
	その他	0.3	0.3	0.3	0.3
	対前年度増減	-	0.0	0.0	0.0
	計	16.0	16.2	16.9	16.9
	運営費負担金・交付金	7.0	6.4	7.7	7.0
	対前年度増減	-	▲0.6	1.3	▲0.7
	その他	1.0	1.0	0.9	1.0
	対前年度増減	-	0.0	▲0.1	0.1
合計	24.0	23.6	25.5	24.9	
対前年度増減	-	▲0.4	1.9	▲0.6	
支出	給与費	16.6	17.0	18.0	17.8
	対前年度増減	-	0.4	1.0	▲0.2
	材料費	0.5	0.5	0.4	0.4
	対前年度増減	-	0.0	▲0.1	0.0
	経費	5.0	4.3	4.7	4.7
	対前年度増減	-	▲0.7	0.4	0.0
	減価償却費	2.1	2.4	2.2	2.2
	対前年度増減	-	0.3	▲0.2	0.0
	その他	1.3	1.0	0.7	0.6
	対前年度増減	-	▲0.3	▲0.3	▲0.1
合計	25.5	25.2	26.0	25.7	
対前年度増減	-	▲0.3	0.8	▲0.3	
差引損益		▲1.5	▲1.6	▲0.5	▲0.8
対前年度増減		-	▲0.1	1.1	▲0.3

※「その他」の内訳は、以下のとおり

- ① 医業収益の「その他」は、室料差額収益及び診断書料等のその他医業収益
- ② 収入の「その他」は、補助金等収益、自立訓練施設収益、預金利息等の財務収益及び駐車場使用料等
- ③ 支出の「その他」は、資産減耗費、研究研修費、支払利息及び雑支出

## II 平成30年度資産・負債・純資産及び留保資金の状況について

### 1 資産・負債・純資産の状況

#### (1) 固定資産

広島市民病院中央棟地下1階給食センター改修工事や内視鏡下手術用ロボットの購入などにより31.9億円増加したものの、減価償却等により▲54.0億円減少したことから▲22.1億円減の510.6億円となった。

#### (2) 流動資産

入院・外来収入の増加等に伴い、現金預金が5.2億円、未収金が1.1億円増加し、全体としては6.4億円増の237.9億円となった。

#### (3) 固定負債

施設整備や医療機器購入などの財源として、広島市から長期借入金を借り入れ27.7億円増加したものの、移行前地方債の償還などにより▲49.7億円減少したことから▲22.0億円減の447.0億円となった。

#### (4) 流動負債

施設整備、医療機器購入などに係る未払金、一年以内に返済予定の移行前地方債償還債務がともに減少したことなどにより▲1.4億円減の105.5億円となった。

#### (5) 資本金

広島市からの出資金193.9億円で、期首から増減はない。

#### (6) 資本剰余金

リハビリテーション病院の土地に対する移行前地方債の償還にかかる広島市からの運営費負担金などにより0.8億円を計上し4.1億円となった。

#### (7) 繰越欠損金

前年度からの繰越欠損金▲6.1億円に当期総利益4.1億円を差し引き▲2.0億円となった。

(表7) 貸借対照表(全体)

単位:億円

区 分	期 首 (30年4月1日)	期 末 (31年3月31日)	増 ▲ 減
資 産			
固 定 資 産	532.7	510.6	▲ 22.1
流 動 資 産	231.5	237.9	6.4
現 金 預 金	136.6	141.8	5.2
未 収 金	92.8	93.9	1.1
そ の 他	2.1	2.2	0.1
合 計	764.2	748.5	▲ 15.7
負 債			
固 定 負 債	469.0	447.0	▲ 22.0
流 動 負 債	104.1	105.5	1.4
未 払 金	49.1	52.8	3.7
そ の 他 流 動 負 債	55.0	52.7	▲ 2.3
計	573.1	552.5	▲ 20.6
純 資 産			
資 本 金	193.9	193.9	0.0
設 立 団 体 出 資 金	193.9	193.9	0.0
資 本 剰 余 金	3.3	4.1	0.8
繰 越 欠 損 金	▲ 6.1	▲ 2.0	4.1
計	191.1	196.0	4.9
合 計	764.2	748.5	▲ 15.7



## 2 施設整備・医療機器等購入について

### (1) 概要

安佐市民病院の建替えに係る整備費を除き、施設整備・医療機器等購入は、中期計画で平成30～令和3年度の4か年の事業費総額82.8億円を定め、その範囲内で必要な整備を行うこととしている。

30年度の事業費は、計画の28.2億円に対し、決算は17.2億円となったが、工期・納期が令和元年度に及ぶため、翌年度へ事業費を繰越した4.0億円と合わせた合計事業費は、21.2億円で、執行残は7.0億円である。

なお、決算額17.2億円の財源としては、広島市からの長期借入金のほか、医療機器等購入については、広島市民病院・安佐市民病院で合計5.5億円の留保資金を活用した。

### (2) 施設整備

施設整備は、広島市民病院が中央棟地下1階給食センター改修工事外3.1億円、安佐市民病院が北館エレベーター改修工事外0.9億円、舟入市民病院が本館冷却塔改修工事外0.9億円、リハビリテーション病院が駐車場整備工事外0.1億円の合計5.0億円を実施した。

### (3) 医療機器等購入

医療機器等は、広島市民病院が内視鏡下手術用ロボット外7.5億円、安佐市民病院がX線透視診断装置外1.9億円、舟入市民病院がマルチスライスCT装置外1.9億円、リハビリテーション病院が超音波画像診断装置外0.9億円の合計12.2億円を購入した。

(表8) 平成30年度施設整備・医療機器等購入の内訳

単位:億円

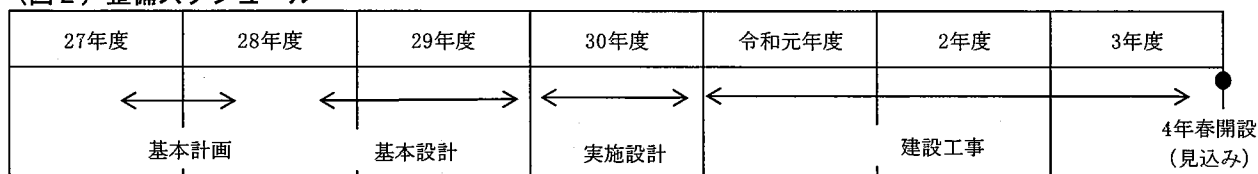
区 分		30年度計画 ①	30年度決算 ②	令和元年度 への繰越③	合計 ④(②+③)	差引 ①-④	財 源	主な整備内容
広島市民病院	施設整備	4.4	<b>3.1</b>	0.7	3.8	0.6	長期借入金	中央棟地下1階給食センター改修工事外
	医療機器等購入	(6.5)	(5.1)	(0.0)	(5.1)	(1.4)	留保資金 長期借入金	内視鏡下手術用ロボット外
	計	(6.5)	(5.1)	(0.0)	(5.1)	(1.4)		
安佐市民病院	施設整備	1.3	<b>0.9</b>	0.0	0.9	0.4	長期借入金	北館エレベーター改修工事外
	医療機器等購入	(0.0)	(0.4)	(0.0)	(0.4)	(▲0.4)	留保資金 長期借入金	X線透視診断装置外
	計	(0.0)	(0.4)	(0.0)	(0.4)	(▲0.4)		
舟入市民病院	施設整備	1.2	<b>0.9</b>	0.2	1.1	0.1	長期借入金	本館冷却塔改修工事外
	医療機器等購入	2.3	<b>1.9</b>	0.0	1.9	0.4	長期借入金	マルチスライスCT装置外
	計	3.5	2.8	0.2	3.0	0.5		
リハビリテーション病院	施設整備	0.4	<b>0.1</b>	0.0	0.1	0.3	長期借入金	駐車場整備工事外
	医療機器等購入	2.3	<b>0.9</b>	1.2	2.1	0.2	長期借入金	超音波画像診断装置外
	計	2.7	1.0	1.2	2.2	0.5		
合 計	施設整備	7.3	<b>5.0</b>	0.9	5.9	1.4	長期借入金	
	医療機器等購入	(6.5)	(5.5)	(0.0)	(5.5)	(1.0)	留保資金 長期借入金	
	計	(6.5)	<b>(5.5)</b>	(0.0)	(5.5)	(1.0)		
		<b>28.2</b>	<b>17.2</b>	<b>4.0</b>	<b>21.2</b>	<b>7.0</b>		

※ ( )内の数値は、留保資金を財源として購入した額で、下段の内数。

### 3 安佐市民病院の建替えについて

荒下地区に整備する病院について、整備費 312.7 億円のうち 30 年度決算額は 3.5 億円で、実施設計及び工事監理等のうち設計監理等を行った。

(図 2) 整備スケジュール



(表 9) 整備費の内訳

単位:億円

区分	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	合計	
基本計画	0.2	-	-	-	-	-	-	0.2	
建替 整備費	基本設計	-	1.3	-	-	-	-	1.3	
	工事監理等	-	0.5	0.4	4.2	3.0	2.5	0.1	10.7
	実施設計	-	-	3.1	-	-	-	-	3.1
	建設費	-	-	-	11.6	92.9	100.4	-	204.9
	土地購入費	-	-	-	9.6	9.6	-	-	19.2
	医療機器購入費	-	-	-	-	-	73.3	-	73.3
合計	0.2	1.8	3.5	25.4	105.5	176.2	0.1	312.5	

### 4 企業債(移行前地方債償還債務)・長期借入金の状況

企業債(移行前地方債償還債務)・長期借入金については、30 年度中に 16.5 億円借入れ 40.0 億円の償還を行ったため、30 年度末の残高は 339.0 億円となり、30 年度期首残高から▲23.5 億円減少した。

(表10) 企業債(移行前地方債償還債務)・長期借入金の推移

単位:億円

区分	30年度期首残高 A	30年度中の借入・償還		30年度末残高 B	増 ▲ 減 B - A
		当期増加	当期減少		
広島市民病院	223.7	6.9	21.5	209.1	▲ 14.6
安佐市民病院	30.1	5.8	7.9	28.0	▲ 2.1
舟入市民病院	49.9	2.8	6.8	45.9	▲ 4.0
リハビリテーション病院	58.8	1.0	3.8	56.0	▲ 2.8
合計	362.5	16.5	40.0	339.0	▲ 23.5

### 5 留保資金の状況

留保資金は、29 年度末残高は 179.9 億円であったが、30 年度末残高は 182.8 億円となり、2.9 億円増加した。

(表11) 30年度末留保資金の病院別内訳

単位:億円

区分	29年度末残高 A	30年度末残高 B	増 ▲ 減 B - A
広島市民病院	90.2	90.9	0.7
安佐市民病院	66.8	71.0	4.2
舟入市民病院	22.9	20.9	▲ 2.0
合計	179.9	182.8	2.9

# 資 料 編

# 1 各年度決算比較

## (1) 収支の状況

(表1) 収支の推移

単位: 億円

区分		27年度	28年度	29年度	30年度
収 入	入院収入	337.7	344.9	351.8	363.0
	対前年度増減	-	7.2	6.9	11.2
	外来収入	145.2	144.1	147.6	156.0
	対前年度増減	-	▲ 1.1	3.5	8.4
	小計	482.9	489.0	499.4	519.0
	対前年度増減	-	6.1	10.4	19.6
	その他	9.4	9.3	9.6	10.4
	対前年度増減	-	▲ 0.1	0.3	0.8
	計	492.3	498.3	509.0	529.4
	運営費負担金・交付金	46.2	47.2	48.7	46.5
	対前年度増減	-	1.0	1.5	▲ 2.2
	その他	5.9	6.5	7.3	8.1
	対前年度増減	-	0.6	0.8	0.8
	合計	544.4	552.0	565.0	584.0
対前年度増減	-	7.6	13.0	19.0	
支 出	給与費	273.6	283.3	288.2	292.2
	対前年度増減	-	9.7	4.9	4.0
	材料費	163.1	161.0	159.5	164.8
	対前年度増減	-	▲ 2.1	▲ 1.5	5.3
	経費	63.2	65.8	68.9	70.4
	対前年度増減	-	2.6	3.1	1.5
	減価償却費	40.0	41.9	42.4	43.1
	対前年度増減	-	1.9	0.5	0.7
	その他	10.3	9.1	8.3	9.4
	対前年度増減	-	▲ 1.2	▲ 0.8	1.1
合計	550.2	561.1	567.3	579.9	
対前年度増減	-	10.9	6.2	12.6	
差引損益		▲ 5.8	▲ 9.1	▲ 2.3	4.1
対前年度増減		-	▲ 3.3	6.8	6.4

※ 「その他」の内訳は、以下のとおり

- ① 医業収益の「その他」は、室料差額収益、人間ドック等の公衆衛生活動収益及び診断書料等のその他医業収益
- ② 収入の「その他」は、補助金等収益、寄附金収益、自立訓練施設収益、預金利息等の財務収益及び駐車場使用料等
- ③ 支出の「その他」は、資産減耗費、研究研修費、支払利息及び雑支出

## (2) 収入の状況

(表2) 入院収入

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	197.3	200.4	202.8	209.0
対前年度増減	-	3.1	2.4	6.2
安佐市民病院	109.0	112.5	117.7	121.5
対前年度増減	-	3.5	5.2	3.8
舟入市民病院	16.1	16.6	15.4	16.7
対前年度増減	-	0.5	▲ 1.2	1.3
リハビリテーション病院	15.3	15.4	15.9	15.8
対前年度増減	-	0.1	0.5	▲ 0.1
計	337.7	344.9	351.8	363.0
対前年度増減	-	7.2	6.9	11.2

(表3) 病床利用率

単位:%

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	96.3	95.8	96.3	95.8
対前年度増減	-	▲ 0.5	0.5	▲ 0.5
安佐市民病院	84.0	85.7	88.5	87.9
対前年度増減	-	1.7	2.8	▲ 0.6
舟入市民病院	(76.6) 74.2	(82.9) 77.0	(76.1) 72.9	(76.8) 76.0
対前年度増減	-	(6.3) 2.8	(▲ 6.8) ▲ 4.1	(0.7) 3.1
リハビリテーション病院	96.1	96.5	95.1	94.4
対前年度増減	-	0.4	▲ 1.4	▲ 0.7

※ 舟入市民病院の( )の数値は、内科・外科のみの数値

(表4) 入院患者数

単位:人

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	261,859	259,867	261,230	259,925
対前年度増減	-	▲ 1,992	1,363	▲ 1,305
安佐市民病院	162,072	164,893	170,206	169,152
対前年度増減	-	2,821	5,313	▲ 1,054
舟入市民病院	36,399	37,644	35,661	37,184
対前年度増減	-	1,245	▲ 1,983	1,523
リハビリテーション病院	35,178	35,225	34,710	34,467
対前年度増減	-	47	▲ 515	▲ 243
計	495,508	497,629	501,807	500,728
対前年度増減	-	2,121	4,178	▲ 1,079

(表5) 新規入院患者数

単位:人

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	20,869	20,781	20,748	20,605
対前年度増減	-	▲ 88	▲ 33	▲ 143
安佐市民病院	14,026	14,270	14,520	14,920
対前年度増減	-	244	250	400
舟入市民病院	3,805	3,789	3,727	4,216
対前年度増減	-	▲ 16	▲ 62	489
リハビリテーション病院	405	406	454	461
対前年度増減	-	1	48	7
計	39,105	39,246	39,449	40,202
対前年度増減	-	141	203	753

(表6) 平均在院日数

単位:日

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	11.5	11.5	11.6	11.6
対前年度増減	-	0.0	0.1	0.0
安佐市民病院	10.6	10.6	10.7	10.4
対前年度増減	-	0.0	0.1	▲ 0.3
舟入市民病院	8.6	8.9	8.6	7.9
対前年度増減	-	0.3	▲ 0.3	▲ 0.7
リハビリテーション病院	95.2	91.5	79.2	77.9
対前年度増減	-	▲ 3.7	▲ 12.3	▲ 1.3

(表7) 入院単価/患者1人・1日当たり

単位:円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	75,360	77,119	77,648	80,399
対前年度増減	-	1,759	529	2,751
安佐市民病院	67,243	68,209	69,143	71,822
対前年度増減	-	966	934	2,679
舟入市民病院	44,130	44,002	43,149	44,904
対前年度増減	-	▲ 128	▲ 853	1,755
リハビリテーション病院	43,426	43,770	45,767	45,765
対前年度増減	-	344	1,997	▲ 2

(表8) 手術件数

単位:件

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	9,097	9,301	9,735	10,076
対前年度増減	-	204	434	341
安佐市民病院	5,719	5,779	5,828	5,811
対前年度増減	-	60	49	▲17
舟入市民病院	583	666	649	624
対前年度増減	-	83	▲17	▲25
リハビリテーション病院	-	-	-	-
対前年度増減	-	-	-	-
計	15,399	15,746	16,212	16,511
対前年度増減	-	347	466	299

※ 件数は、手術室で行った手術件数を集計

(表9) 救急患者数

単位:人

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	33,630	32,734	31,878	30,888
対前年度増減	-	▲896	▲856	▲990
安佐市民病院	11,133	10,904	11,066	11,572
対前年度増減	-	▲229	162	506
舟入市民病院	40,667	38,018	40,421	36,957
対前年度増減	-	▲2,649	2,403	▲3,464
リハビリテーション病院	-	-	-	-
対前年度増減	-	-	-	-
計	85,430	81,656	83,365	79,417
対前年度増減	-	▲3,774	1,709	▲3,948

(表10) 外来収入

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	92.1	89.0	90.3	97.3
対前年度増減	-	▲ 3.1	1.3	7.0
安佐市民病院	41.1	43.2	45.0	45.8
対前年度増減	-	2.1	1.8	0.8
舟入市民病院	11.6	11.4	11.6	12.1
対前年度増減	-	▲ 0.2	0.2	0.5
リハビリテーション病院	0.4	0.5	0.7	0.8
対前年度増減	-	0.1	0.2	0.1
計	145.2	144.1	147.6	156.0
対前年度増減	-	▲ 1.1	3.5	8.4

(表11) 外来患者数

単位:人

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	430,730	434,809	436,792	436,039
対前年度増減	-	4,079	1,983	▲ 753
安佐市民病院	194,674	197,938	196,552	193,273
対前年度増減	-	3,264	▲ 1,386	▲ 3,279
舟入市民病院	88,933	85,819	86,847	85,096
対前年度増減	-	▲ 3,114	1,028	▲ 1,751
リハビリテーション病院	3,362	4,178	4,908	5,261
対前年度増減	-	816	730	353
計	717,699	722,744	725,099	719,669
対前年度増減	-	5,045	2,355	▲ 5,430

(表12) 外来単価/患者1人・1日当たり

単位:円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	21,376	20,465	20,671	22,325
対前年度増減	-	▲ 911	206	1,654
安佐市民病院	21,089	21,862	22,886	23,682
対前年度増減	-	773	1,024	796
舟入市民病院	13,064	13,344	13,422	14,205
対前年度増減	-	280	78	783
リハビリテーション病院	12,413	11,847	14,083	15,090
対前年度増減	-	▲ 566	2,236	1,007



(表13-1) 運営費負担金・交付金の推移 (損益収支分)

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	17.5	18.6	18.5	19.4
対前年度増減	-	1.1	▲ 0.1	0.9
安佐市民病院	8.9	8.7	8.5	7.1
対前年度増減	-	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 1.4
舟入市民病院	12.8	13.5	14.0	13.0
対前年度増減	-	0.7	0.5	▲ 1.0
リハビリテーション病院	7.0	6.4	7.7	7.0
対前年度増減	-	▲ 0.6	1.3	▲ 0.7
計	46.2	47.2	48.7	46.5
対前年度増減	-	1.0	1.5	▲ 2.2

(表13-2) 運営費負担金・交付金の推移 (資本収支分)

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	0.0	0.0	0.0	0.0
対前年度増減	-	0.0	0.0	0.0
安佐市民病院	0.0	0.0	0.9	0.1
対前年度増減	-	0.0	0.9	▲ 0.8
舟入市民病院	0.0	0.0	0.0	0.0
対前年度増減	-	0.0	0.0	0.0
リハビリテーション病院	1.2	1.2	1.2	1.2
対前年度増減	-	0.0	0.0	0.0
計	1.2	1.2	2.1	1.3
対前年度増減	-	0.0	0.9	▲ 0.8

(表14) 30年度運営費負担金・交付金の内訳

単位:億円

区分	合計	病院別			
		広島市民病院	安佐市民病院	舟入市民病院	リハビリテーション病院
1. 保健衛生行政(自立訓練施設分を含む)	3.3	0.2	0.2	0.7	2.2
2. 救急医療	12.3	7.5	2.3	2.5	-
3. 被爆者健診	0.2	-	-	0.2	-
4. 看護師養成	0.5	0.3	0.1	0.1	0.0
5. 特殊医療(リハビリテーション等)	3.2	0.0	1.3	-	1.9
6. 感染症医療	0.3	-	-	0.3	-
7. 小児医療	2.4	-	-	2.4	-
8. 院内保育	0.7	0.4	0.3	-	-
9. 企業債利息償還金	2.2	1.2	0.1	0.6	0.3
10. 医師等の研究研修に要する経費	0.8	0.4	0.2	0.1	0.1
11. 共済組合追加費用	1.0	0.6	0.3	0.1	-
12. 基礎年金拠出金公的負担経費	2.4	2.4	-	-	-
13. 退職手当(交付金)	0.2	-	-	0.2	-
14. 企業債元金償還金(リハ病院土地取得分を除く)	17.0	6.4	2.3	5.8	2.5
計	46.5	19.4	7.1	13.0	7.0
資本収支分					
15. 企業債元金償還金(リハ病院土地取得分)	1.2	-	-	-	1.2
16. 安佐市民病院建替整備分	0.1	-	0.1	-	-
計	1.3	-	0.1	-	1.2
合計	47.8	19.4	7.2	13.0	8.2

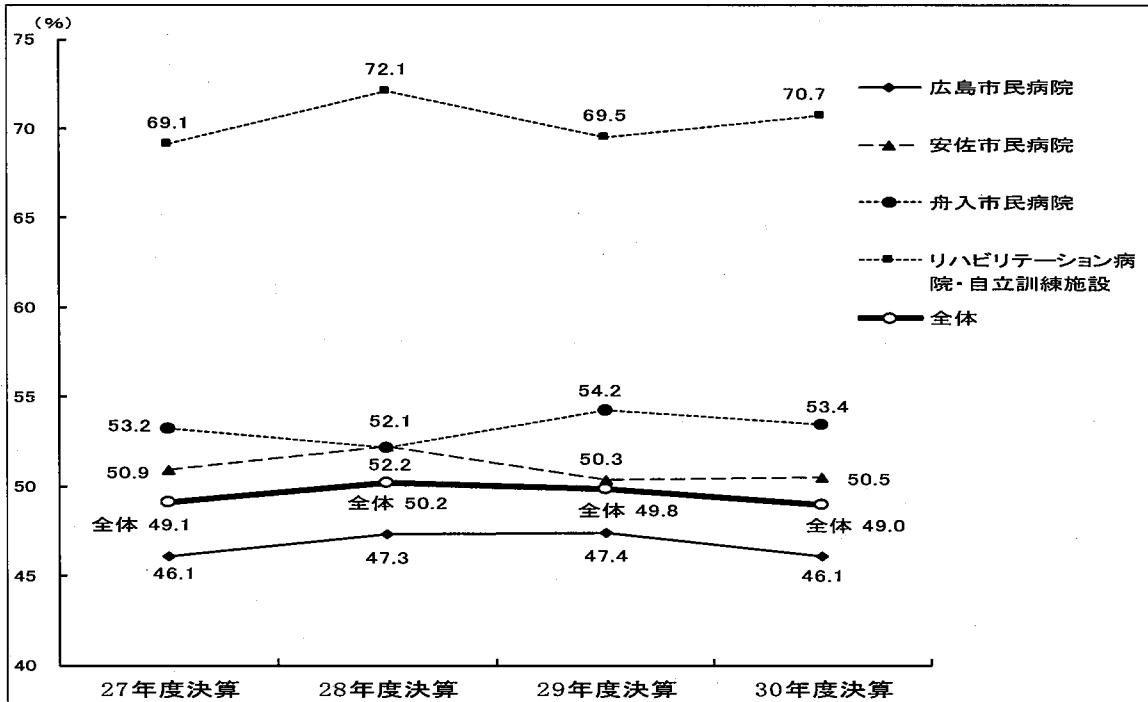
(3) 支出の状況

(表15) 給与費

単位: 億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	148.8	152.8	155.6	157.8
対前年度増減	-	4.0	2.8	2.2
安佐市民病院	85.1	90.0	90.4	92.1
対前年度増減	-	4.9	0.4	1.7
舟入市民病院	23.1	23.5	24.2	24.5
対前年度増減	-	0.4	0.7	0.3
リハビリテーション病院	16.6	17.0	18.0	17.8
対前年度増減	-	0.4	1.0	▲0.2
計	273.6	283.3	288.2	292.2
対前年度増減	-	9.7	4.9	4.0

(図1) 給与費対医業収益等比率



注 給与費対医業収益等比率 = (給与費/医業収益等) × 100

・給与費は退職給付費用を除く。また、本部事務局分の給与費は、各病院の職員数、事業規模等に基づき、本部経費が充てられる割合に応じて按分し、各病院に加算している。

・医業収益等は、医業収益(「入院収入」+「外来収入」+「その他医業収入」)に「損益収支への繰入金」を加えたものとしており、事業報告に記載している「給与費対医業収益比率」とは異なっている。

(表16) 給与費の推移-職種別

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
医師	60.7	64.8	64.4	65.7
対前年度増減	-	4.1	▲ 0.4	1.3
看護師	116.8	121.5	123.8	126.0
対前年度増減	-	4.7	2.3	2.2
医療技術職	32.9	34.9	37.6	38.0
対前年度増減	-	2.0	2.7	0.4
事務	9.5	10.1	9.1	9.4
対前年度増減	-	0.6	▲ 1.0	0.3
業務員	0.5	0.5	0.8	1.0
対前年度増減	-	0.0	0.3	0.2
嘱託・臨時	43.3	41.3	41.8	42.0
対前年度増減	-	▲ 2.0	0.5	0.2

(表17) 正規職員数の推移

単位:人

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
医師	315	328	325	327
対前年度増減	-	13	▲ 3	2
看護師	1,383	1,439	1,441	1,458
対前年度増減	-	56	2	17
医療技術職	462	502	524	526
対前年度増減	-	40	22	2
事務	96	107	106	114
対前年度増減	-	11	▲ 1	8
業務員	8	8	13	15
対前年度増減	-	0	5	2
計	2,264	2,384	2,409	2,440
対前年度増減	-	120	25	31

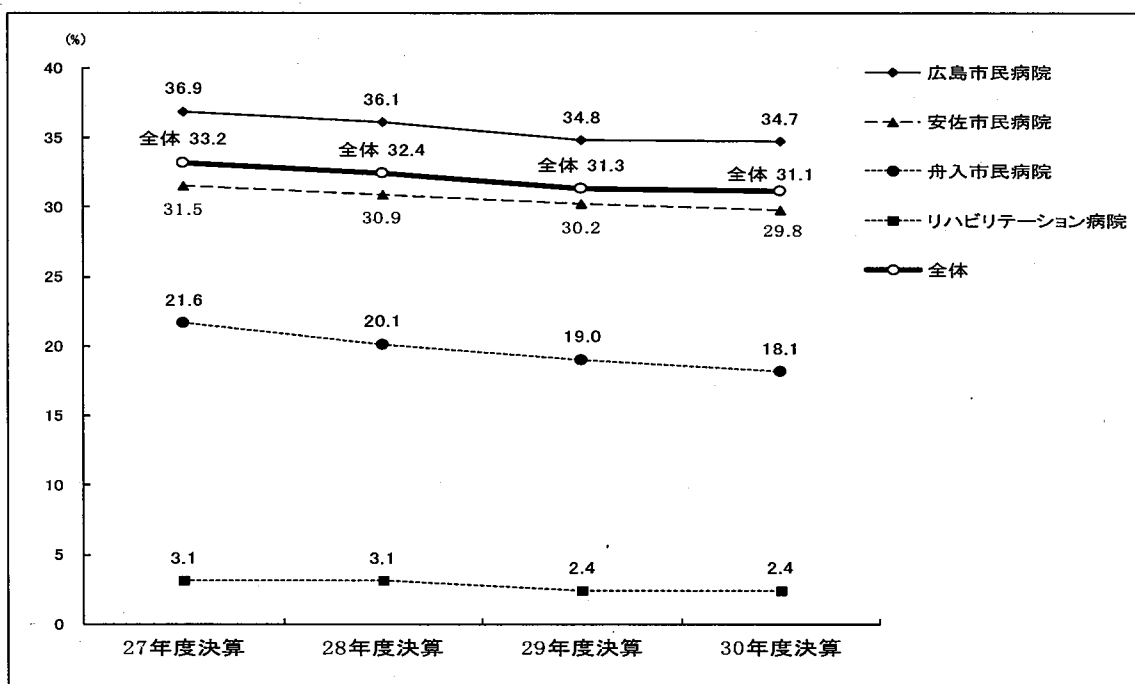
※ 職員数は各月の給与支給人員の平均

(表18) 材料費

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	108.4	105.8	103.8	108.4
対前年度増減	-	▲ 2.6	▲ 2.0	4.6
安佐市民病院	47.9	48.7	49.8	50.4
対前年度増減	-	0.8	1.1	0.6
舟入市民病院	6.3	6.0	5.5	5.6
対前年度増減	-	▲ 0.3	▲ 0.5	0.1
リハビリテーション病院	0.5	0.5	0.4	0.4
対前年度増減	-	0.0	▲ 0.1	0.0
計	163.1	161.0	159.5	164.8
対前年度増減	-	▲ 2.1	▲ 1.5	5.3

(図2) 材料費対医業収益比率



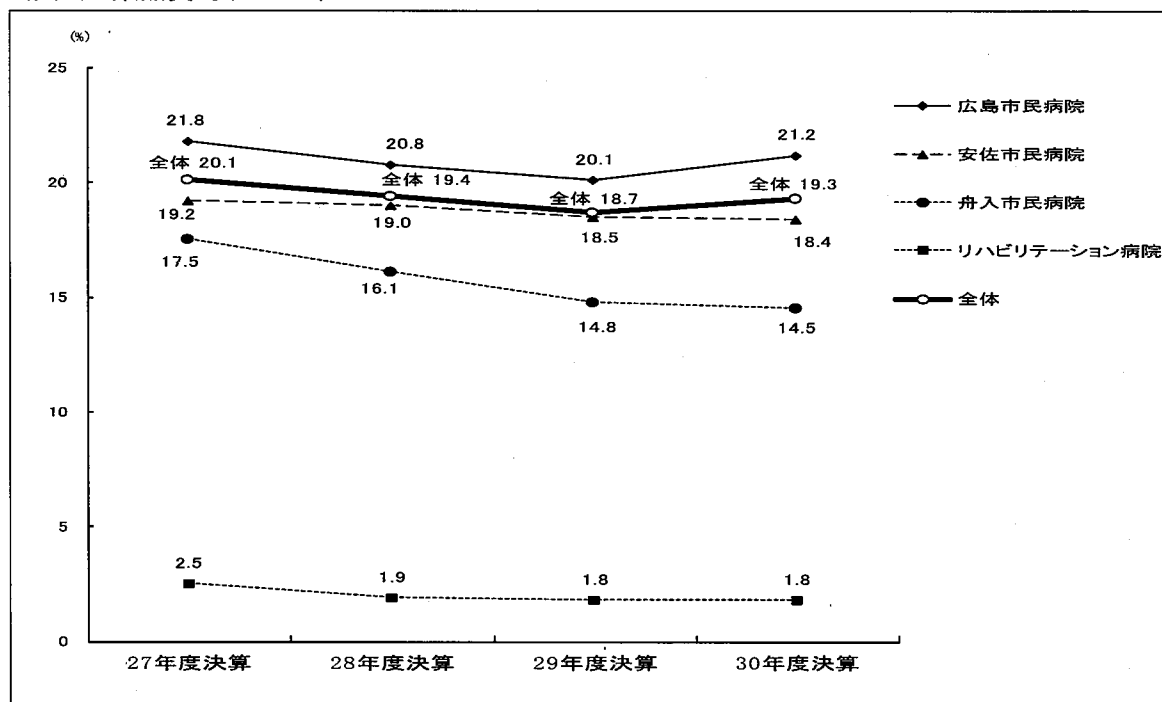
注 材料費対医業収益比率=[材料費/医業収益(入院収入+外来収入+その他医業収入)]×100

(表19) 材料費のうち薬品費

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	63.9	61.1	60.0	66.1
対前年度増減	-	▲ 2.8	▲ 1.1	6.1
安佐市民病院	29.2	30.0	30.5	31.1
対前年度増減	-	0.8	0.5	0.6
舟入市民病院	5.1	4.8	4.3	4.5
対前年度増減	-	▲ 0.3	▲ 0.5	0.2
リハビリテーション病院	0.4	0.3	0.3	0.3
対前年度増減	-	▲ 0.1	0.0	0.0
計	98.6	96.2	95.1	102.0
対前年度増減	-	▲ 2.4	▲ 1.1	6.9

(図3) 薬品費対収益比率



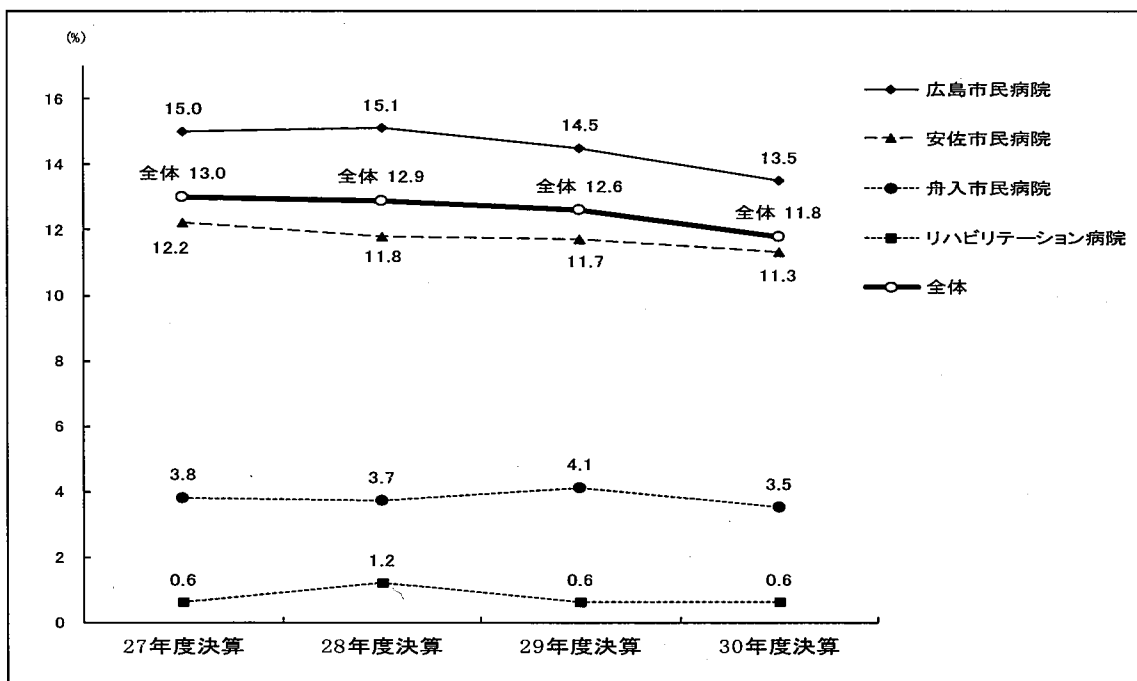
注 薬品費対医業収益比率 = [薬品費 / 医業収益 (入院収入 + 外来収入 + その他医業収入)] × 100

(表20) 材料費のうち診療材料費

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	44.1	44.3	43.4	42.2
対前年度増減	-	0.2	▲ 0.9	▲ 1.2
安佐市民病院	18.5	18.6	19.3	19.2
対前年度増減	-	0.1	0.7	▲ 0.1
舟入市民病院	1.1	1.1	1.2	1.1
対前年度増減	-	0.0	0.1	▲ 0.1
リハビリテーション病院	0.1	0.2	0.1	0.1
対前年度増減	-	0.1	▲ 0.1	0.0
計	63.8	64.2	64.0	62.6
対前年度増減	-	0.4	▲ 0.2	▲ 1.4

(図4) 診療材料費対医業収益比率



注 診療材料費対医業収益比率=[診療材料費/医業収益(入院収入+外来収入+その他医業収入)]×100

※ 材料費の内訳として主なものを記載しており、この他に、給食材料費、医療消耗備品費があることから内訳の合計額は、材料費の決算額とは一致しない。

(表21) 経費

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	31.9	33.7	35.0	36.8
対前年度増減	-	1.8	1.3	1.8
安佐市民病院	17.8	19.7	20.8	20.2
対前年度増減	-	1.9	1.1	▲ 0.6
舟入市民病院	8.5	8.1	8.4	8.7
対前年度増減	-	▲ 0.4	0.3	0.3
リハビリテーション病院	5.0	4.3	4.7	4.7
対前年度増減	-	▲ 0.7	0.4	0.0
計	63.2	65.8	68.9	70.4
対前年度増減	-	2.6	3.1	1.5

(表22) 減価償却費

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	23.4	23.1	24.6	25.6
対前年度増減	-	▲ 0.3	1.5	1.0
安佐市民病院	10.8	12.3	12.1	11.7
対前年度増減	-	1.5	▲ 0.2	▲ 0.4
舟入市民病院	3.7	4.1	3.5	3.6
対前年度増減	-	0.4	▲ 0.6	0.1
リハビリテーション病院	2.1	2.4	2.2	2.2
対前年度増減	-	0.3	▲ 0.2	0.0
計	40.0	41.9	42.4	43.1
対前年度増減	-	1.9	0.5	0.7

(表23) その他の支出

## ア 費目別

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
資産減耗費	0.8	0.3	0.2	0.7
対前年度増減	-	▲ 0.5	▲ 0.1	0.5
過年度損益修正損	0.7	0.9	0.5	1.5
対前年度増減	-	0.2	▲ 0.4	1.0
長期借入金・移行前地方債利息	7.3	6.6	5.8	5.2
対前年度増減	-	▲ 0.7	▲ 0.8	▲ 0.6
その他	1.5	1.3	1.8	2.0
対前年度増減	-	▲ 0.2	0.5	0.2
計	10.3	9.1	8.3	9.4
対前年度増減	-	▲ 1.2	▲ 0.8	1.1

## イ 病院別

単位:億円

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
広島市民病院	6.9	6.0	5.6	6.2
対前年度増減	-	▲ 0.9	▲ 0.4	0.6
安佐市民病院	0.8	0.8	0.9	1.5
対前年度増減	-	0.0	0.1	0.6
舟入市民病院	1.3	1.3	1.1	1.1
対前年度増減	-	0.0	▲ 0.2	0.0
リハビリテーション病院	1.3	1.0	0.7	0.6
対前年度増減	-	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.1
計	10.3	9.1	8.3	9.4
対前年度増減	-	▲ 1.2	▲ 0.8	1.1